



わが道は真実一路 一人でも多くの親切さんを表彰したい

昭和38(1963)年に「小さな親切」運動がスタートしてから、『一隅を照らすは国宝なり』*との思いを込め、街の親切さんに「小さな親切」実行章を贈呈する活動を展開しています。

個人で一番熱心に活動してくださっているのは、秋田県鹿角市の土館一二三(79歳)さん。なんとこの度、600件目となる実行章の推薦が届きました。

600人目の受章者は、自衛隊を退職後、身につけたスキルを活かし、防災訓練や自治会活動に取り組む工藤薫さん(67歳)。推薦状には、活動の記録ともいえる写真がたくさん添付されています。

土館さんと「小さな親切」の出会いは34年前。当時職場で社内報作りに携わり、街のいい話を紹介するうちに、親切さんに心ひかれた土館さんは、会社を通して実行章の推薦をするようになり、退職後も一人で活動を続けています。

「受章者は、誰も自分の行為が親切だとは思っていません。ですから、実行章を手にとされたとき、自

分の行為が多くの人たちの心を温かくしていることを知り、感激されます。そんな気持ちが「面白い」と話す土館さん。

トレードマークの大きなアタッシュケースに、これまでの受章者リストや贈呈式の様子を写した写真、新聞記事のコピーなどを入れ、いい話を聞かたびに、これを車に積んで会いに出かけます。

実際にお会いすることを大切に、「小さな親切」運動を知ってもらい、運動への理解と協力をお願いすることも欠かしません。実行章の賞状も、土館さんが感謝を込めて伝達しています。

今では、秋田県本部副代表、「小さな親切」運動本部特任推進委員としても大活躍されています。

*天台宗の開祖、最澄が「山家学^{さんげがく}生^{しょうしき}式」の冒頭にしるした一節。「派手なこと、目立つことばかりが尊いのではなく、片隅の誰も注目しないような物事にきちんと取り組む人こそ尊い意。」



土館一二三さん